

総合部会

研究主題 生きる力を育てるための総合的な学習の時間の進め方

1 主題について

大館市では、各校の特色を生かしながら「ふるさと・キャリア教育」に取り組んでいる。本部会でも、より一層充実した活動を行うことで自分で課題を見付け、生き生きと活動する子どもを育てたいと考え、この主題を継続し研究を進めてきた。

2 今年度の取組

月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研究会 研究主題確認・年間計画作成
10月15日	指導案検討会（西館小）
11月 7日	第2回総合研究会授業研究会（西館小）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成24年11月7日（水）
- ・会 場 西館小学校
- ・単元名 3年「わんぱくキッズ大集合！」
- ・授業者 山部 幸信

① 授業者から

- ・事前打ち合わせで、ゲストティーチャーである保育園の先生には、グループに答えではなく、考える視点を与えてほしいことをお願いした。
- ・グループでの話し合いは15分の予定であったが、グループによっては細かいところまで検討しており、時間がかかってしまった。そこで全体の意見交流をやめ、ゲストティーチャーに「園児がとても楽しみにしており、3年生自身も楽しくやろう」と伝えていただき、次への意欲付けとした。
- ・グループでの話し合いでの気を付けるポイントは、その種目に合った内容を考えさせたかった。

② 協議

- ・ゲストティーチャーが入ったことは有効であった。教師やゲストティーチャーの支援で各グループの話し合いは、「園児が喜ぶ」という視点で深まったり、広がったりできていた。最後の全体への話は、もっと内容にかかわってもよかったのではないかな。
- ・写真を見せたことで、空間のイメージが広がり、できる、できないが見えてきた。手立てとして有効であった。
- ・グループの話し合いが中心となり、グループ間の意見交流の時間が確保できなかった。大事にしたい活動なので、次の時間にぜひ行って欲しい。
- ・気を付けることの中には、喜んでもらうための工夫と留意しなければならないことが混じっていた。具体的に何をどこまで決めるとよいのか、明確にするとよかった。
- ・毎年、年間指導計画で決まっている活動をその子どもたちのオリジナルな活動にするためには、活動のモチベーションとなる課題づくりが大切である。



【保育園の先生を
ゲストティーチャーに迎えて】

(2) テーマ研究（実践の情報交換）

- ・各校の特色を生かしながら「ふるさと・キャリア教育」に取り組む学校が多くなってきた。
- ・地域の人たちの協力態勢が整ってきている。地域の人たちとのかかわりの中で学ぶことは多い。
- ・より現実的で、実践しやすいもの、各教科との関連等を考えて「ふるさと・キャリア教育」の全体計画の見直しを行っている。
- ・子どもの課題を踏まえた活動が大事であり、学年毎に決まっている活動の場合は特に課題との出会い方が大切になってくる。



【グループで決めたことを発表】

(3) 指導助言（一関 光 指導主事）

- ・子どもたちが事前に園児と触れ合ったこと、保育士と何度か話し合ったこと、活動の条件を板書で示したことなど、本時で具体的な活動内容を考えるための手立てが適切だった。
- ・教師も授業者として、よく勉強しているのが分かる指導計画、本時の指導であった。
- ・園児の立場に立った話し合いのために、「～をすれば園児が喜ぶ」「～は園児がケガをすることもかもしれないから～する」などの例を示し、何をどこまで話し合うかを教えるのとよかった。
- ・探究活動では、子どもたちが課題に対してどれだけ一生懸命考えたか、自分たちなりの答えを見つけたかが大切である。子どもの質問に対しては、すぐに答えを教えるのではなく、子どもがその気になって考えるような言葉を返したい。
- ・単元計画を考える時必要なこと
 - ①子どもが主体的にかかわることができる、探究的な学習の課題設定となっていることが必要。そのためには、教師の意図的な働きかけ（体験活動やゲストティーチャーの活用を含む）による「価値ある課題づくり」を大切にす。
 - ②育てたい力を明確にし、単元計画との整合性を図ること。単元で育てようとする【他者や社会とのかかわりに関すること】は、園児とのかかわりだけでなく、ゲストティーチャーやクラスの友達たちとのかかわりも重要であり、単元計画に位置付けることが必要。
 - ③全教育活動と関連させ、各教科で身に付けた知識や技能が子どもたちの中で総合的に働くようにすることが総合的な学習の時間のねらい。各教科等（特に生活科での学習経験、道徳、特別活動）との関連も大事にして単元を構成する。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・授業へのゲストティーチャーの参加は、子どもたちの思考を深める支援となった。
- ・活動の場をイメージできる写真資料は、子どもたちの思考を助ける手立てとして有効であった。
- ・単元計画や本時の流れの掲示によって、子どもたちが見通しを持って活動できた。

(2) 課題

- ・毎年行っている活動に意欲的に取り組ませるため、課題づくりに大きなウェートを置いた年間指導計画。
- ・探究活動の支援として、教師やゲストティーチャーが子どもにどうかかわるかを考えたい。
- ・価値ある課題設定のために何が必要か教師が考え、工夫したい。